

平面計画シール2 ワークシート

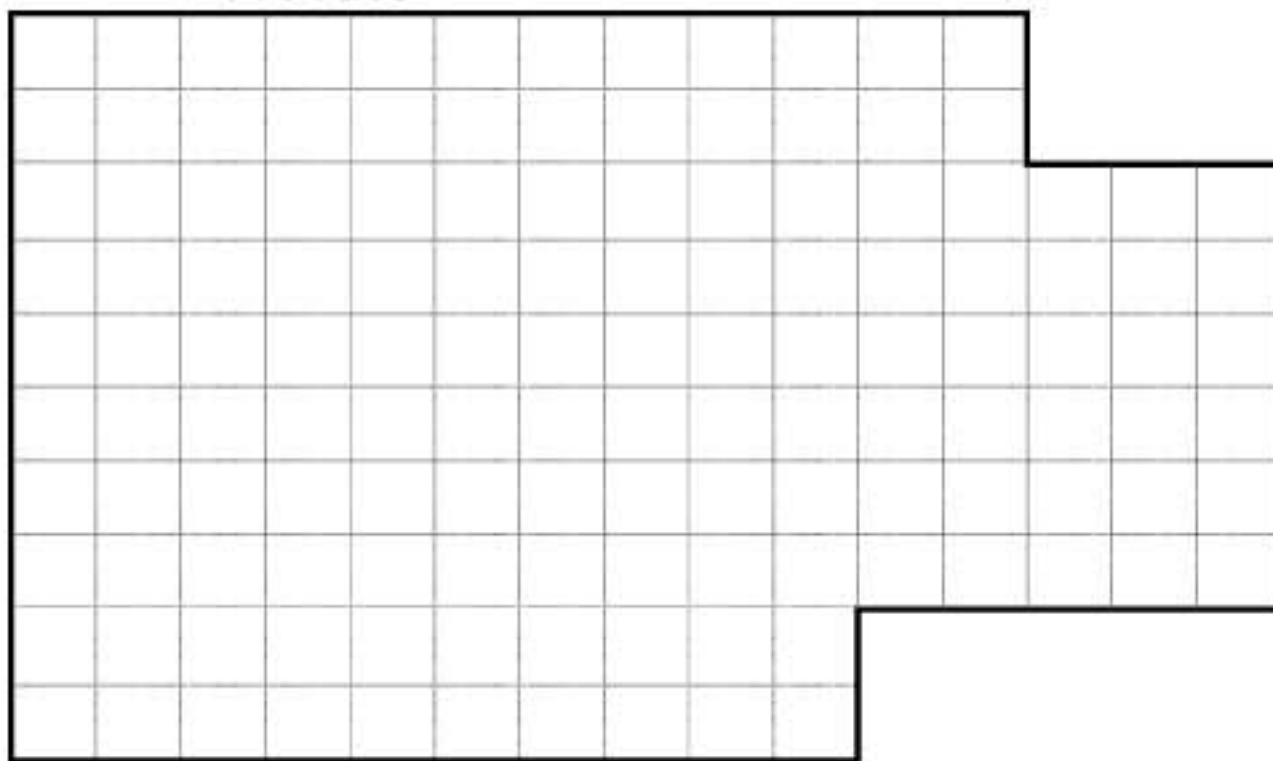
年 組 番 氏名

準備 30歳の私の創設家族を考える（子は、性別も明記）

	年齢	日中の過ごし方	住まいへの希望
私	30		

条件 上の表の家族が暮らす住まいの平面計画を完成させます。
戸建平屋またはマンションで計画しましょう。

解説図 あなたの平面計画の住まいの特徴・工夫点・アピールポイント等をわかりやすく示しましょう。



発展 さらに20年後（50歳の私）には、どんな工夫が考えられますか。

感想 平面計画をした感想を書きましょう。

「平面計画シール2」指導実践事例

●大好評！「平面計画シール2」で住生活の授業を、さらに活気あるものに！

生徒用シール教材「平面計画シール2」は発売以来、全国で大変ご好評をいただいております。誠にありがとうございます。

今回、まだ本教材をご活用いただけていない先生方や、使用しただけで授業が組み立てにくいと思われた先生方に向けて、本教材の授業実践をまとめました。本教材を授業に取り入れる際のご参考としていただければと思います。

この「平面計画シール2」を用いることで、住生活に関する実にさまざまな学習について、生徒自身が考えるきっかけとすることができます。是非、先生のお授業でご活用いただき、その実践をお知らせください。

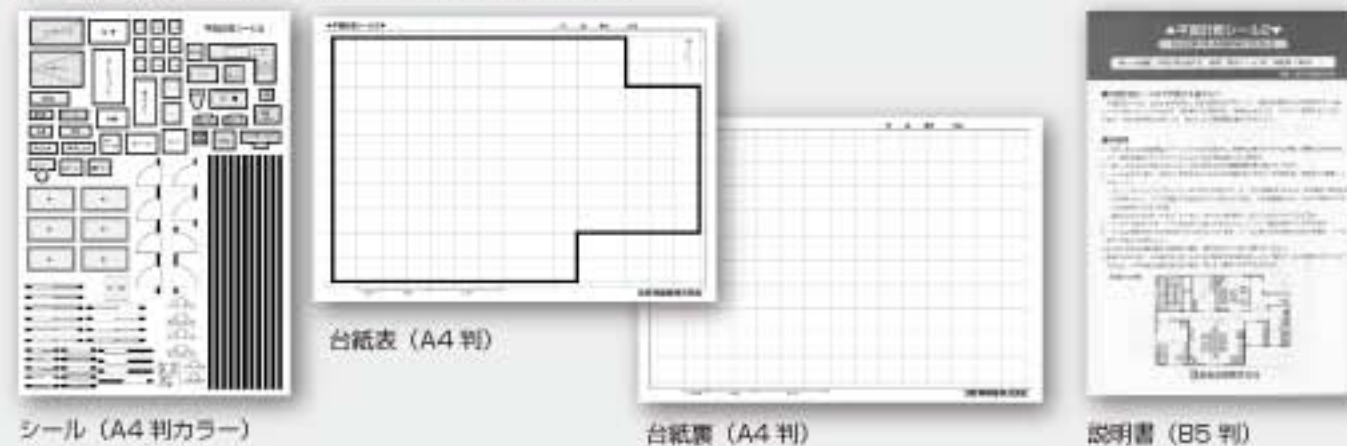


生徒の実習作品①



シール教材をより効果的に展開するために、オリジナルのプリントを活用しています（最終ページ参照）。

●●●「平面計画シール2」の教材構成●●●



シール（A4判カラー）

台紙表（A4判）

台紙裏（A4判）

説明書（B5判）

「平面計画シール2」の実践事例

城西大学附属城西中学・高等学校 家庭科 林田 有加子

◆◆教材のポイント◆◆

「平面計画シール2」を利用して、住空間について学習してきた内容の総復習と定着をはかります。日々の生活を振り返ることにより、家庭内での各部屋・家具の位置関係、ゾーニングと動線が重要であることが自然に理解できます。また、シールを貼りながら「家族関係」「子どものいる暮らし」「高齢者のいる暮らし」など家庭科の多くの分野にまたがって生活を考えることができます。

住まいは、長い年月をかけて私たちの暮らしの器となり、何度も買い換えることのできない大切な空間であることを感じとりながら、夢を語り、楽しく作業を進め、理解を深めることができます。

◆◆指導計画・指導方法◆◆

『前時までの指導』

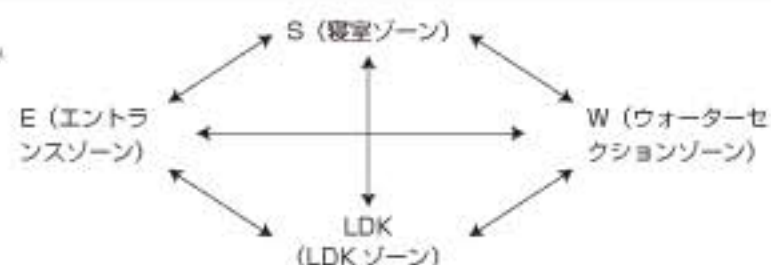
1. どんな住まいで生活をしている？
自分の住空間について、あらためて眺めてみる。

2. 住空間の役割を考える

個人生活空間	生理衛生空間
家事労働空間	共同生活空間
⋮	⋮

『指導計画例』

3. 住まいのデザインを考える
(1) ゾーニングと動線の仕組み



1 時間

- * 住宅広告などを利用し、ゾーニングと動線の仕組みを理解させる。
- * // , 平面表示記号を理解させる。

- (2) 平面計画シール2

「ワークシート」と「平面計画シール2」を配布

30歳の自分を想像し、創設家族の設定を考えさせる。

設定家族について、想像を膨らませる。

条件を確認し、「平面計画シール2」を開始
条件①設定家族が暮らす住まいの平面計画を行う
②戸建平屋またはマンションで計画する

まず、玄関の位置を決め、必要な部屋とその数、ゾーニングを考えさせる。

平面計画シールの活用

工夫点、アピールポイント、住まいの特徴などをまとめさせる。

発展として…

さらに20年後(50歳の私)には、どのような工夫ができるかを考えさせる。

まとめ

2 時間

一人暮らしは
避けます。

「108㎡」の設定が、日本の
平均的家屋の面積であることを
伝えると取り組みやすい。

玄関の位置は、
変わっても良い。



◆◆評価項目と驚きの計画例◆◆

1. バランスのよいゾーニングであるか
家具の配置によって、通行が困難となることも…
2. 生活機能は満たされているか
内側ばかりに気を取られ、玄関がなかったり…
個室にばかり気を取られ、風呂場やトイレがなかったり…
家具の配置にばかり気をとられ、窓がひとつもなかったり…
トイレのドアをつけ忘れていたり…
3. 動線は確保されているか
玄関から入りそれぞれに順調に出入りできるスペースが設けられているか確認するとよい。
入口の見つからない空間があったり…
風呂場を通過しなければ寝室にたどりつかなかったり…
4. 換気・通風・日照等が考えられているか
窓の前をタンスでふさいでしまったり…
脱衣所にピアノが置いてあったことも…
玄関を入ると噴水がお出迎えしてくれることも…
——本当にこれでいいの？
5. 家族設定にあった空間であるか
6. 20年後にはどのような工夫が考えられたか
子どもが成長し、自分も年を重ねてゆく20年後のリフォーム計画が書かれることも…
介護の必要な両親と同居したときの計画が書かれることも…
7. 解説図から読み取る、特徴・工夫・アピールポイント
東日本大震災以降、耐震対策を強化している記述が多く見られるように…
8. 感想



生徒の実習作品②



◆◆本教材を使用して◆◆

本校では、「住まう」の単元を高校1年4月入学の最初に扱っています。生徒は毎日、各々の「住まい」から登校し、その空間は生徒の生活を支える器として大変重要な役割を持っています。まず、そのことに気づかせ、そこから家庭科の授業がはじまります。

教える側が「住まう」の単元は、ちょっと苦手…と想着いても、いつもの生活空間と未来の空間を想像しながら家族のことを考えたり、趣味のことを考えたりといった時間を生徒に持たせることで、生徒自らが生活を創意工夫し、新学習指導要領にも対応する「家庭生活経営能力」を養うきっかけとなります。

本教材に取り組む生徒たちは、夢や希望を語り合いながらも、現実をしっかりと見つめ考える時間を「楽しい」「生きた授業」として真剣に取り組んでいます。